モンスターハンター　～異世界から来た太陽～

Mt.KOBURA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
モンスターハンター　～異世界から来た太陽～

【Ｎコード】
Ｎ９６１９Ｙ

【作者名】
Ｍｔ．ＫＯＢＵＲＡ

【あらすじ】
成績優秀、運動神経抜群の主人公が仲間と
一緒に狩りまくるほのぼの？ストーリーです！

第1話：嵐の前の静けさ（前書き）

こんばんは！！

夜だけど、初投稿でテンション上がりまくり→→→のＫＯＢＵＲＡです！

今日が初投稿ですので駄文、文法が成り立っていないのであらかじめご了承ください

それでは、記念すべき第１話始まり始まり～！

第1話：嵐の前の静けさ

Ｈｅｌｌｏ！！　俺は七海紅葉！！　キラッキラの中学生だ！

……はぁ～、たりぃ～

このテンションマジできつい…

分かる？俺超燃え尽きてんの。

だって、朝からこのテンションつて…

でも、一つだけ熱心に取り組めるゲームがあるんだ！！

　その名を“モンスターハンターポータブル”

俺がこれまで、やってきたゲームの中でも特に面白い！！って俺が絶賛するくらい面白い！！

？？？「おーい、紅葉～！」

ちなみに今の声は俺の幼なじみでありながら、

モンハン仲間でもある“赤羽　栞”だ。

栞「紅葉！私やっとジンオウガ倒せたよ！！」

……朝からうるせぇ～～～（怒）

ちなみに今、会話にでたジンオウガってのは

モンハンに出てくる４足歩行で電気を操るモンスターね（誰に説明してんだ？俺！？）

…つーかジンオウガなんてとっくに倒してるし…

栞「ねえ、紅葉、聞いてる！？」

紅葉「ああ、聞いてる聞いてる？」

栞「何そのは「おーい、おっふた～りさ～ん！」ん？あっ！！良と蓮」

今、会話にでた良と蓮も俺の幼なじみでモンハン仲間。

「ねえねえ、聞いて！！私やっとジンオウガ倒せたよ！！」

良「おお、よかったじゃん！！」

蓮「…遅くね？」
栞「む～！しょうがないじゃん！もともとああ
いうゲーム苦手だし！」
紅葉「…苦手ならやんなよ…」
栞「えー！だって、みんなと話が合わないの
嫌だし」
面倒くさい性格…
良「なーなー、そんなことよりさ、歩きながら
でいいから、モンハンやろうぜ！」
栞「あ！私も！私も！」
蓮「俺も！」
良「紅葉は？」
紅葉「やる…。」
こうして俺たちは学校に行くまでモンハンをやることになったんだけど……まさかあんなことになるとは今の俺たちじゃ予想すらつかなかった……

第1話：嵐の前の静けさ（後書き）

どうでしょうか！？

ご感想などお待ちしております。

第2話：謎の黒い穴（前書き）

こんばんは～
テンション高いうちに2話目投稿で～す。

まあ、こんなにテンションが高いのは、今日でテストが終了だから
☆（こんなときに勉強せずに執筆している私はダメ人間　テヘッ）

まあ、テストの話はこんくらいにして
それでは第2話　「謎の黒い穴」
始まり始まり～

第2話：謎の黒い穴

みんなで歩いて１０分　やっと学校が見えてきた
グレーの校舎　校庭には朝練が終わって燃え尽きている生徒たち
あれが俺たちの通っている私立名秋学園（ちなみに県内で一番頭のいい学校だって　自慢じゃねえぞ＾＾）

さて、おそらく校門には…いた　源田だ…←←
あっ、源田っていうのは、生徒指導の先生で
名秋学園では生徒に一番嫌われている先生ね
（最近俺、誰に説明してんだ？）
紅葉「おい、お前ら　源田がいるから、そろそろ…」
俺が言いかけた瞬間、キイィーンと耳鳴りのような音が聞こえてきた。
紅葉「なんだこの音？耳鳴り？」
良「紅葉、お前も聞こえんのか？」
紅葉「え！？お前も！？」
蓮「俺も聞こえるぞ」
栞「私も」
紅葉「周りの様子を見る限り、耳鳴りは俺たちだけみたいだな。」
良「ああ。でも、なんで…？」
良が言い終わった瞬間、耳鳴りが急に止まった…
蓮「あれ？止ま…」
その時、突然ギュオォォオォォと変な音がなった。
良「な、なんだこりゃ！？」
紅葉「（一体、どうなってやがる…？）」

バコッ

容器を潰したような音が聞こえた瞬間、校門に
突然黒い穴が出現した。
良「うわっ！！」
蓮「なんだ、ありゃ！？」
栞「ど、どうなってんの！？」
紅葉「周りの奴等は気づいてねえみたいだな…」
紅葉が言い終えたあと、突然４人の身体が光始めた
良「なっ！？」
蓮「う、うわ！？」
栞「きゃあ！！なにこれ！？」
紅葉「まだ、誰も気づかねえのか！？」
そう、まだ誰も紅葉たちの異変には気づいていない。
その時、４人の身体が一際強い光を発した瞬間、突然４人の姿が消
えてしまった。
しかし、そのことに気づくものは、誰１人としていなかった……。

第2話：謎の黒い穴（後書き）

どうでしたか？

感想などよろしくお願いします。

第3話：ジャギィの群れとドスジャギィ！？（前書き）

こんにちは～

テストが、終わってウキウキルンルンの
Ｍｔ．ＫＯＢＵＲＡです！！

いや～、テストって嫌ですよね～。
今年は高校受験なんで勉強やろうとは思ってんですけどね～。
中々、上手くいきません☆

さて、それでは第３話「ジャギィの群れとドスジャギィ！！
始まり始まり～

第3話：ジャギィの群れとドスジャギィ！？

???side

―　来たか…

―　……

―　そのようで…

―　さて、次の太陽はどれほど輝くものか…

―　楽しみですな…

???side

―　うん？ここはどこだ…？

???「…いっ、起き…」

―　だ、誰だ…？

???「…いっ、起きろ！！」

―　　…ちっ！うるせぇなぁ！！

???「おい、起き…ゲフッ！！」

良side

俺が目を開けた時、目の前に広がった光景はなんとも言い難い光景だった。
良「な、なんだ…ここ？」
目の前に広がるのは新緑の森、悠久の崖、小鳥のさえずり、遠くから聞こえる何かの咆哮
良「ど、どうなってんだ！？」
確かにさっきは、学校の通学路で４人とモンハンしながら、歩いてた筈…！？
良「そ、そうだ！！みんなは！？」
周りを見ると、３人ともすぐ近くにいた　よかった…
良「おいっ！？みんな大丈夫か！？」
紅葉「うぅ…」
良「紅葉！？おいっ！！大丈夫か！？」
紅葉「うっ…うぅ…？」
良「おいっ！！起きろ！！」
良「おいっ！！起き「うるせぇなぁ！！」ゲフッ！！」
えっ！？なんで！？なんで殴られんの！？つーか、顔！？しかもグーパン！？
紅葉「っ…なんだよ、耳元で怒鳴りやがって…」
良「いや、俺は起こそうと…」
蓮「うぅ…」
栞「う…ここは…？」
良「おおっ、二人とも気がつ「うっせぇ！！」…」
なあ、俺キレていいよな　いいよね　だって、俺だけおかしいじゃん（涙）
紅葉「ん？何泣いてんの？」
良「うっせぇ！！…うぅ」
なんで、俺だけ…　あっ、でもさすがの紅葉も心配くらいしてく…
紅葉「んなことより、ここ何処だ？」

うん、軽く受け流されたね…
栞「あれ、さっきまでゲームやってたのに…」
蓮「つーか、バッグとかみんな無くなってね？」
栞「あっ！ほんとだ！」
紅葉「まあ、んなもんどうでもいい　んなことより、ここは一体どこだっつー話だ」
良「少なくとも、日本じゃねーよな」
栞「うん…うちの近くにもこんなとこないよ」
紅葉「やっぱ、さっきの黒い穴が原因か…」
蓮「つーか、このまま、帰れんかったら、どうしよー」
さすが、蓮だな　意味わかんないことに来ても全く動じてない
栞「も～、そんなこといわないで！！」
蓮「あ～、悪りぃ、悪りぃ」
紅葉「さて、それにしても…？」
良「どした？紅葉？」
紅葉「…歩くぞ…」
良「はぁ？どうしてまた急に…」
紅葉「雨が降る」
栞「えっ！？ほんと！？」
紅葉「あぁ…西の方角に雨雲が見える…」
そんなの、全然見えないんですけど…
「まあ、あと1時間くらいで降るからそれまでに人のいるところを見つけるか、洞窟でも探す…」
良「？どした？」
紅葉「なんか、足音が聞こえる…」
栞「えっ？そんなの聞こえないけど…」
紅葉「シッ…」
紅葉が人差し指を口の前にやる…
紅葉「ん？」
蓮「なんか、分かったの？」

紅葉「あぁ、この足音は…人間じゃない？」
栞「えっ！？」
紅葉「なにか、二足歩行の生き物が５０匹くらいしかも、かなり大きい…」
良「はぁ？なんだよそれ？」
栞「ね、ねぇ！！あれ！！」
栞が指を指したところを見ると確かに二足歩行で薄い紫の蜥蜴のような生き物が崖を上っているのが見えた
良「な、なんだ！？ありゃ！？」
蓮「これって～……やばくね？」
栞「に、逃げようよ…」
紅葉「駄目だ！あれじゃすぐに追い付かれる」
栞「じゃあ、どうすれば？」
紅葉「…俺が…囮になる」
栞「な、何言ってんの！？」
良「正気か！！」
紅葉「俺は、至って、正気だ…　それに、ここで４人とも全滅するより、一人が囮になって、残った奴等がこの先にある村かどこかで、このことを知れば、最終的に被害は少なくなる…」
良「だからって、お前が犠牲になることなんか！！」
栞「そうだよ！！一緒に逃げよう！！」
しかし、紅葉は崖下にいる蜥蜴から、目を離そうともしなかった
蓮「…任せて、いいんだな？」
栞「蓮！？」
紅葉「…ああ」
蓮「…分かった…」
良「おい蓮！！お前、仲間を見捨てんのか！！」
良が蓮の胸ぐらをつかむ
蓮「紅葉は間違ったことは言ってないし、おそらく紅葉なら、あの程度なら…」

良「？あの程度？どういうことだ！？」
蓮「……」
紅葉「いいから！」
紅葉が声を荒げて言う
紅葉「ここは、俺に任せろ…」
良「！？…っ！！」
栞「紅葉…」
蓮「……」
良「っ！！くそ！！必ず追い付けよ！！」
栞「紅葉！あんなのに負けないでね」
蓮「任せたぞ～」
みんな、紅葉の意見に納得したようだ
紅葉「ああ！！必ず追い付く！！」
紅葉が、言い終わって安堵したのか、みんな、一斉に蜥蜴が走っている道とは、反対の方向を駆ける
紅葉「…行ったか　　さて、そろそろご到着かな♪」
紅葉のいった通り、紅葉の後ろには大勢の蜥蜴がいた
紅葉「ふっ！久しぶりの実戦か！前の実戦からは６年振り　腕が鈍っていなければいいが…」
紅葉が、言い終わった瞬間、群れの中でも一際大きい蜥蜴が突然鳴きだした
どうやら、紅葉を敵と判断したようだ
紅葉「ふっ！その程度の殺気か　他愛もない」
蜥蜴「ギャオッオゥオ」
紅葉「さあ、行くぞ！！」
紅葉と蜥蜴が動きだした
しかし、その間に入る影
？？？「ふふ♪少しは楽しませてくれるかな♪」
チャキッと刀を抜く音が聞こえた…

第3話：ジャギィの群れとドスジャギィ！？（後書き）

はい、第3話終了でーす

あっ、もちろん紅葉はまだ死にませんよ！

ていうか、ここで死んだらこの話もう、終わっちゃうってｗｗ

あっ、それと次回からはここにキャラクターのプロフィール載せていきますんでそこんとこよろしくです～。

では、感想など、お待ちしておりまーす

第４話：竜人族の少女（前書き）

こんちはー　　Ｍｔ．ＫＯＢＵＲＡです！！

いやー、一日に２回投稿ってきついっすねー！

でも、まあ、、基本的に僕は暇人なので、

こんなことは、しょっちゅうあるんで

よろしくでーす

それでは、第４話「竜人族の少女」

始まり始まり～

第４話：竜人族の少女

？？？ｓｉｄｅ

崖下を見てみると、４人の子供が、なんか動揺？っていうか、困惑した表情をしている。
…うん！今のあたしなら、多分顔見られずにあの子たちを殺れるね♪
ん？あの子たちのさらに崖下に…ハハーン♪
この気配はジャギィの群れとドスジャギィか♪
こりゃ、間違いなくあの子たち、食い殺されるね♪

でも、あの赤髪の少年は、とっくに気づいてるな……一時間後、雨が降ることもね♪
おっ♪来た来た　紫蜥蜴　　ん？…ふーん、あの赤髪の子、殿務めるんだ…それに、結構殺気出てるね♪なんか、気持ちよくなってきちゃった♪

ふふ♪ちょっと、興味出てきた♪

紅葉ｓｉｄｅ

まずは、３体小さいのが、出てきた…殺気をぶつけてみたが、怯んでもすぐに向かってきた。
おそらく、あの一際でかいのが、親玉…んで、そいつが指令を出してるのか…どおりで、妙に統率が取れているのか…だが…

スパアァーンッ！！

俺の周りを、間合いを取るかのようにぐるぐる回っている蜥蜴を手刀で頸動脈を切る

それだけで、一匹の雑兵の命を刈り取った…

「ギャオッ！？」

それだけで親玉は、驚いている……この程度で驚くのでは……お前は首領失格だ！！

？？？ｓｉｄｅ

うそっ！？まさか、武器を使わずにジャギィを倒すなんて…いくら、ジャギィが小型モンスターでも、手だけで、倒すのはかなりきついし…

ふーん、これはかなり興味出てきたよ…

でもまだ、余裕そうだから、もう少し見てるかな♪

紅葉ｓｉｄｅ

ハアハァッ、クソ！！まだいるのか！！

現在、俺の周りには２０匹くらいの小蜥蜴が息絶えている。

だが、これだけ倒しても、まだ半数の小蜥蜴と、首領が、残っている。

それに、もうひとつ厄介なことがある。

それは、一撃で殺せなくなったことだ…

さっきから、的確に頸動脈を狙えなくなってきた。もちろん俺の疲労が原因でもあるが、もうひとつ俺が頸動脈を狙えない原因があった

奴等が、攻撃の瞬間に身体をずらしてくるのだ…

俺の推測だが、あの首領が俺の攻撃パターンを記憶して、それを雑兵に伝えているのだ

それを聞いた雑兵どもは、俺が攻撃する瞬間に、身体を数ｍｍずらして急所をずらす

クソ！敵ながらなかなか天晴れなことだ…

そんなことを考えながら、戦っていると、当然小蜥蜴以外に注意がいかない

俺は、小蜥蜴の攻撃をかわす際、小石のつまづいて、転んでしまった

紅葉「しまっ…！？」

俺が転んだのを好機と見たのか、一斉に飛びかかってきた。

クソ！！いくらなんでも、こんな大人の体重とほぼおなじような奴等が一斉に飛びかかってきたら、あっという間に圧死してしまう！！

クっ！！ここまでか…みんな、ごめん…――――

「ふふ♪少しは楽しませてくれるかな♪」

俺が、諦めて目を瞑ったら突然少女の、声と

「ギャアッ！！」

小蜥蜴の断末魔らしき声が聞こえた…

？？？ｓｉｄｅ

あっ！やばっ！あの子かなり、疲れてる。
でも手だけで倒した数は２３頭か…ふーん、これはかなりすごいね
　うん今すぐ目の前にいって拍手したいくらい、いやマジで！
だって、武器も使わずにジャギィを２３頭倒すって人間やめてるでしょ（笑）

あっ！つまづいた。しょうがない、やっと私の出番だね！ふふ♪興奮してきちゃった♪

紅葉ｓｉｄｅ

いきなり、俺の前に現れて小蜥蜴を切り伏せた女、一体何者だ？
しかし、よく見てみると見た目が俺らと何かが違う！
まず耳が尖ってる　つーか、これってモンハンにもあったんだけど……えっ！？ここってまさかモンハンの世界！？じゃあ、さっきのはモンスター！？でも、俺は、見たこと…あれっ…あーーーーー！！分かった！！これ、ジャギィか！？つーか、俺目悪いから全くわからんかった
。だってさ、こっちの世界に来たら眼鏡もなくなってんだもん！！
マジでアリエンティ

えっ！？じゃあ、どうして、女の耳が尖ってるって分かったって？
予備の眼鏡が尻ポケットにあったんだよ！集中しすぎて気づかんかった。　でも、この世界に来たときは、そんなもんなかったと思うが…まっ、いいか。
にしても、耳が尖ってるってことは、この女竜人族か？
？？？「ねえ、大丈夫？」
紅葉「ん？ああ、大丈…」
立とうとした瞬間立ちくらみが起こった

どうやら、想像以上に身体を酷使してしまったようだ…
???「ちょっと！全然大丈夫じゃないじゃん！！…いいよ。私があいつら殺るから♪」
……なんか今、あどけない顔の少女の口から“殺る”とか、聞こえてきたんですけど…
でも、竜人族だから、おそらく2～300年は優に生きている筈だけど…
でも、
???「とりあえず、君は座ってなよ♪あいつらなんて余裕で倒せるから♪」
何故か、この少女からでる言葉は信頼出来るものの声だった…
紅葉「（俺って、初めてあった奴は、基本的に欠片ほどの信頼もしないんだけどね…、でも、まっ、いっか♪）」
そんなことを考えていると女は、背中に背負っている刀？いや、この世界じゃ、太刀か？を抜いていた
紅葉「（あの、刀は夜刀【月影】…へぇー、なかなかできるんだな）」
???「さて、始めるか」
女は楽しそうな、今から、お遊びでも、するかのような声ではっきり言った
???「殺し合いを♪」

宴が始まった瞬間だった…

第４話：竜人族の少女（後書き）

登場人物紹介　　Ｆｉｌｅ１

名前：七海　紅葉

年齢：１５歳

血液型：Ｂ型

誕生日：２月１１日

身長：１７４ｃｍ

体重：６５ｋｇ

私立名秋学園３年生　成績優秀、運動神経抜群たが、面倒くさがり屋のため、必要以上に友達は作らない。しかし、顔は結構イケメンなので七海紅葉ファンクラブがある。髪の色は赤。視力は右が０．１　左が０．０３なのでかなり度の強い眼鏡をかけている。

殺気を感じとるとこができるほか、ジャギィを素手で倒したその実力から、過去に何かあった模様…。

赤羽　栞、鳥田　良、村地　蓮とは幼い頃からの幼なじみである。

どうでしょうか？

今回はいつもより（とはいっても、まだ３話しか無いけど）長めに

してみました。

プロフィールに関しては、やっぱ下手くそですね。
紅葉の過去については、番外編で書くか、話の後半で書くかは、今後、考えていきます。

それでは、次回もすぐに投稿すると思うので、よろしくお願いしまーす！

第5話：雨に打たれる孤高の狼（前書き）

こんにちはー　　Ｍｔ．　ＫＯＢＵＲＡでーす！

今日テストが返ってきました

……死んだ

いや、冗談抜きで！！だって、合計５００点中３００点もいかないってマジでヤバい！！

つーわけで、次回から更新速度が遅くなりますのでご了承くださいませ。

それでは、第５話「雨に打たれる孤高の狼」始まり始まり～

第5話：雨に打たれる孤高の狼

紅葉ｓｉｄｅ

勝負はあっという間についた。
竜人族の女は俺たちを囲っていたジャギィ数十頭をあっという間に切り伏せた
しかも、一撃で首を落として。
紅葉「（化け物かよ…）」
はっきりいって、お前も十分、化け物だよｗｗ

ｂｙ，作者

紅葉はそんな失礼なことを考えてる内にドスジャギィもあっという間に落ちた。
女のすぐ近くにはジャギィの首とドスジャギィの首が、ある。
紅葉「（栞や、良が見たら、吐いちまいそうだ…）」
今も、女はいかにも、欲求不満そうな顔で刀の血を拭いていた。
???「あ～あ～、なにこれ！？マジで弱くない！！だって、首を斬っただけで、首が落ちるなんて有り得なくない！！あ～あ、ウォーミングアップにもならなかった…（…あの子と殺りあってみたいなあ）」
竜人族の少女が、そんなことを考えていると紅葉が突然口を開く
紅葉「おい、女！！」
???「ん？なーにー？」
紅葉「お前、名は何て言うんだ？」
???「え？私？」
少女は、まるで「なんで、自分？」と今でも言いたげな顔をした
紅葉「お前しか、いねぇーだろ？」
???「んー？私の名前かー…まっ、いっか♪

私の名前はリュノ！リュノ・フラヌリーテ！！」
紅葉「ふーん…俺の名前は七海　紅葉な！」
リュノ「そっか、紅葉か……うん！！いい名前だね！！」
紅葉「そんなん、言われたこと、一度もねえけど…」
事実だ…今まで、俺の周りに群がってきた奴等は俺の外見ばかりで、内面を見ようとする奴等は一人もいなかった。
そんな時に初めて俺の内面を見た奴がいた。
蓮だ……
そこから、幼なじみだった、良や栞とも、仲良くなっていった
いつの間にか俺のファンクラブも出来ていたらしいが、そんなん無視した。
そんな中でこうやって、名前を褒めてくれた人は俺にとっては新鮮なものだった。
紅葉「リュノ！さっさと、行こうぜ！！この先に俺のなか「知ってるよ♪紅葉が殿になって、３人逃がしたんでしょう？」
なあっ！？こいつ、まさか…
リュノ「うん♪全部見てた♪」
……ぶっ殺す！！（怒）（怒）（怒）
なんなんだよ、こいつ！！見てたんならさっさと助け…
リュノ「だって、助けなくてもいいって思ったしー？」
……もう、いいや　こいつ、なんか栞と同じ匂いがする（やかましそうなね…）
リュノ「なんか今、失礼なこと考えてなかった？」
紅葉「いいや、別に（めっさ、棒読みｗｗ）」
リュノ「ふーん、まぁいいや♪さっ、行こ♪」
紅葉「（これは、逆らわないのが、吉か…）」

良ｓｉｄｅ

あれから、随分走ったな　にしても、ほんとにここは、何処だ？

…何処かで見たこと、あるような気がするんだが…

栞「ハッ、ハッ、ハ…キャッ！？」

蓮「おっと。」

栞が、転びそうな所を蓮が受け止める　しかし…

栞「ハァハァッ…」

栞は、もう限界だ　そりゃ、そうだ。なんの、運動も、していない

奴が休みもせずに1、2kmは、走ったのだ。そりゃ、こうもなる。

良「…少し、休もうか…」

蓮「ああ、そうしようぜ…」

栞「……」

もう、返事すら、出来ないようだ

良「しょうがない、10分くらいきゅうけ…」

？？？「おーい、みんなー！」

ん？誰かが手を振りながらこっちに走ってくる

しかも、一人は…女？

？？？「おーい、みーんーなーーー！！」

おいおい、あれって、まさか…

紅葉「おーい、返事しろよー」

紅葉！？あいつ、いつから女を…じゃない！あいつ、生きていたのか！？良かった…。

蓮side

あぁー、もう走んのめんどいーーー

良は、まだ大丈夫そうだけど、栞は、そろそろ限界だな…

おっと、案の定転んだ

栞「キャッ！！」

蓮「おっと。」

ふー、ギリギリセーフ♪なんとか、受け止めれた。

栞「ハァハァッ…」
おっと、こりゃ重症だ…こりゃ、少しは休んだ方が…
良「…少し、休憩するか…」
良、ナーイスタイミーング！！まっ、俺もちょっとは、疲れていたけど…
良「しょうがない、１０ぷんくらいきゅうけ…」
えっ？１０分だけ！？…良って結構鬼畜なんだな…
にしても、どうしたんだ？途中まで言ってて…
？？？「おーい、みんなー！」
ん？この声は…ふーん、倒したんだ…
？？？「おーい、みーんーなーーー！！」
……紅葉！！……

栞ｓｉｄｅ

ハッハッ…　私たちが走り始めてもう、２０分は経った

って、ていうかなんでこの２人、まだ余裕そうな顔してるの！？
良は、体力バカだから、分かるけど蓮は！？
そんなこと考えていたら、小石につまづいてしまった。
しまっ…！？
蓮「おっと。」
間一髪で蓮が受け止めてくれた。感謝感激！！
しかし、お礼を言うほど体力が残っていない
蓮「大丈夫？」
ごめん、もうなんも言えない…
良「…少し、休憩するか…」
えっ！？ほんと！？よかった～♪
良「しょうがない、１０分くらいきゅうけ…」
えっ！？たった１０分！？短っ！？…でも、どうしたの？急にいい

止まって？
？？？「おーい、みんなー！」
えっ！？この声って！？
？？？「おーい、みーんーなーーー！！」
もしかして……紅葉！？

紅葉ｓｉｄｅ

俺が、走りながら呼んでも、誰も俺だと気づいていない……まあ、
蓮は気づいてるだろうけど
リュノ「あの子たち？」
紅葉「あぁ！そうみたいだな」
ちなみに俺が、ジャギィどもから受けた傷は、リュノが回復薬や、
薬草で治療してくれた。いやー、初回復薬だよ♪そりゃもう、テン
ション上がったね！！…リュノに引かれるぐらい…
捕捉…回復薬の味としては、牛乳を水で１００回割ったくらいの味
つまり、不味いってことね…うぅ…

ポツポツ…

ん？雨か？ちっ！もう1時間も経ったか…
リュノ「雨…降ってきちゃったね…」
紅葉「ああ…」

俺は特に何も言わずに返事した

それから少し走ってやっとみんなのとこについた。
紅葉「よう、みんな！さっきぶり？」
みんな、何も言い返さない…ちょっ！？みんな…何も言い返さない
なんて……悲しくなるじゃないか…

スクッ

突然、栞が立ち上がった。ゆっくりこっちに近づいてくる。……もしかして、怒ってらっしゃる……？

スッ

ついに俺の前に立ち止まった。やべぇ…こりゃフラグが…

紅葉「え～と…しお…」

栞「この、バカぁッ！！」

パンッ

グハッ！！うおっ！！やっぱり、来たか　ビンタ…

しかし、次の瞬間突然抱きつかれた…

栞「いや、いやだよ…紅葉がいなくなるなんて…」

栞……

栞「もう、あんなこと無茶なことしないで…」

紅葉「栞……うん…ごめん……」

俺は、素直に栞に謝った

紅葉「それと、心配してくれて…ありがとう…」

栞「…ううん…いいよ…あっ、ごめんね！痛かった？」

紅葉「ちょっと…」

俺は、素直にビンタの感想を述べる。

栞「ごめんね！！大丈夫？」

栞が俺をさらに心配してきた

紅葉「こんくらいなら、大丈夫！」

…にしても、さっきから思ってんだけど…

紅葉「栞…」

栞「ん？何？」
紅葉「…そろそろ、離れてくれない？」
栞「えっ！？」
さっきから、栞が抱きついたままなんだ…
栞「あっ、あぁ／／／」
やっと、自覚したか
栞「紅葉の…」
ん？
栞「紅葉のバカぁーーーー！！」

バキッ

グオッ！！なんでグーパン！？しかも！顔！？
……理不尽だ……

捕捉…俺が殴られた瞬間な良が口元をつり上げたのを見た俺は速攻で良に八つ当たりするのだった

第5話：雨に打たれる孤高の狼（後書き）

登場人物紹介　　ｆｉｌｅ２

名前：鳥田　良

年齢：１５歳

血液型：Ｏ型

誕生日：６月３日

４人の中でもリーダー格的な存在。体力バカだが、部活には、入っていない。学校でも、特に同姓からは人気がある。活気溢れる活発少年だ！！

え～、まずは、読者の皆様に謝りたいことが２つありまして…

まず一つ目は、紅葉の年齢です。
前の話のプロフィールで紅葉の年齢を１５歳と表記してしまったのですが、それだと計算が合わないので、正しくは“１４”歳です。

次に二つ目ですが、まさかの狼ことジン〇ウガが出現しませんでした。
次話で必ず出しますのでご了承下さい

それでは、次の第６話もよろしくお願いしまーす！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9619y/

モンスターハンター　～異世界から来た太陽～

2011年11月30日19時54分発行